

おも それぞれの思い

Aさん

小学3年生ぐらいいから、体は男だけど、心は女だと感じていた。中学生になり、声は低くなり喉ばとけがでてきた。体はだんだんと筋肉質になり、男らしい体つきになってきた。それが嫌で、鏡で自分の体を見るのを避けている。

男子トイレを使うのは緊張する。そのため、ずっと個室を使っていたら冷やかされた。だから、普段使われていない別の階のトイレを使ったり、授業中にいったりするけど、学校では我慢している。

体育の着替えや健康診断の時に、みんなと一緒に着替えるのも苦痛になってきた。これから、修学旅行で誰かとお風呂に入ることになったらと思うと憂鬱になる。

Bさん

小さい時から、スカートが嫌いで、野球やサッカーをするのが大好きだった。友だちは男子ばかりで、みんなにからかわれることが多かった。けれど、小学生の時はみんなと仲が良かった。

中学生になり、男子と小学生の時のように話をしていると、「男好き。」と言われたり、男子からも「おまえ前、女子だからあっちいけ。」と言われたり、今までのように男子の中にいることができなくなった。しかたなく女子として、みんなに合わせて話をしているけれど、とても疲れる。その話が恋愛話のときは、最悪な気分になる。

最近、体の変化として胸が出てきた。すごくショックで気持ちが悪い。胸がめだたない服を着てごまかしてはいるけど、本当の自分でないみたいだ。本当の自分で何だろう。

資料2の一部

あなたは1人じゃない。～トランスジェンダー・女優・タレントとして生きる～

自分に自信を持てない。自分を好きになれない。夢や目標を持てない。そんな人もいるのではないでしょうか?たくさんの道があるからこそ悩む。そんな方もいるかも知れません。

今回は自分の思いを持ち続け夢を実現させている、西原さつきさんを取材してきました。



未来に、エールを。「自分を好きになれる自分になろう!!」
西原 さつき

西原さつきさんは生まれた時は男性でした。しかし、幼い頃より性別に違和感を抱き過ごしてきました。

16歳でホルモン治療を開始し、大学卒業後は女性として一般企業に就職。その後、タイにて性別適合手術を受けられます。「Miss International Queen 2015」にて特別賞の「ミス・フォトジェニック賞」受賞や、NHKドラマ「女子的生活」のトランスジェンダー指導、ご自身もドラマ出演を果たされています。また、女の子らしくなるためのレッスンスクール「乙女塾」のボイスレッスン講師としてもご活躍されています。

[別紙③] 生徒の感想

1年

- ・ 私は、傷つける気がなくても生きづらさを感じさせてしまうことがあると知りました。なので、ひとつひとつの言葉を考えて発言したいです。
- ・ 私も女らしくあるのが嫌で、制服もズボンが良かったけど、親に反対されて、嫌だけどスカートをはいてる。でも今日の授業を受けて、ちょっと気持ちが楽になったような気がする。
- ・ ちょっと考えが違うだけで、みんなから特別あつかいされたりするのは違うと思った。自分の周りにそんな人がいても、いつも通り仲良くしたいとおもった。
- ・ 私は同性の人に告白されたことがあるので理解しやすかったです。別に同性の人に告白されても違う性別の人に告白されたときと同じようにすれば良いと思います。同性の人を好きになるのも別に普通。
- ・ 前も一度やったことがあるけど、やっぱりむずかしい課題だなと思いました。自分も LGBTQ の人と会ったとき適切に接せられるかと言われると分からないのでそういうときのためにこういう授業があるからきちんとやっていきたいです。

2年

- ・ その人が悩んでいることなどを理解し、その人を特別扱いするのではなく、好きなことをやりやすく接することが大切だと思います。みんなと違って悩んでいるのに余計に特別にすると「なんで？」ってなるからありのままの人を尊重するべきだと思います。今日学んだことを活かし、もし今後そんな人に出会ったら相手がいやな思いにならないような対応をしたいと思います。
- ・ 無意識に抱えてしまう偏見をなくすことは難しいが、自分の考えが正しいと思い込んだりすることなく様々な意見を取り入れようとする姿勢と柔軟な頭を誰もがもつべきだと思う。
- ・ 誰もが生きやすい社会にするための1つとして、相手のことを理解し、気持ちを尊重されるということはとても大切だと思いました。勝手な偏見や自分の価値観だけで相手のことを決めつけるのではなく、その人のことをその人個人として尊重することが大切だと思いました。

3年

- ・ たくさんの考えをもつ人がいると知って、その考え方を否定せずに、尊重しようと思いました。もし自分と違う考え方をもつ人がいてもその考え方を尊重できる人になろうと思いました。
- ・ 生まれてきたのだから、それに抗うことは出来なくても、置かれた環境の中で、自分にできることを考え、行動することが大切なのかなと思った。
- ・ 性別に関係なく、この世の中は基準が多くあると思います。その基準をなくして本当の多様性を実現できる社会になってほしいなと思いました。
- ・ もし自分の暮らすに Aさんや Bさんがいたらと考えると、どうやって行動することが正解なのか難しかったです。その人たちに気遣いすぎても居心地が悪いかもしれないし、逆に何も触れないことは配慮が足りないと思うので、さりげなく聞き出してみたり、周りの環境づくりが大切だと思いました。

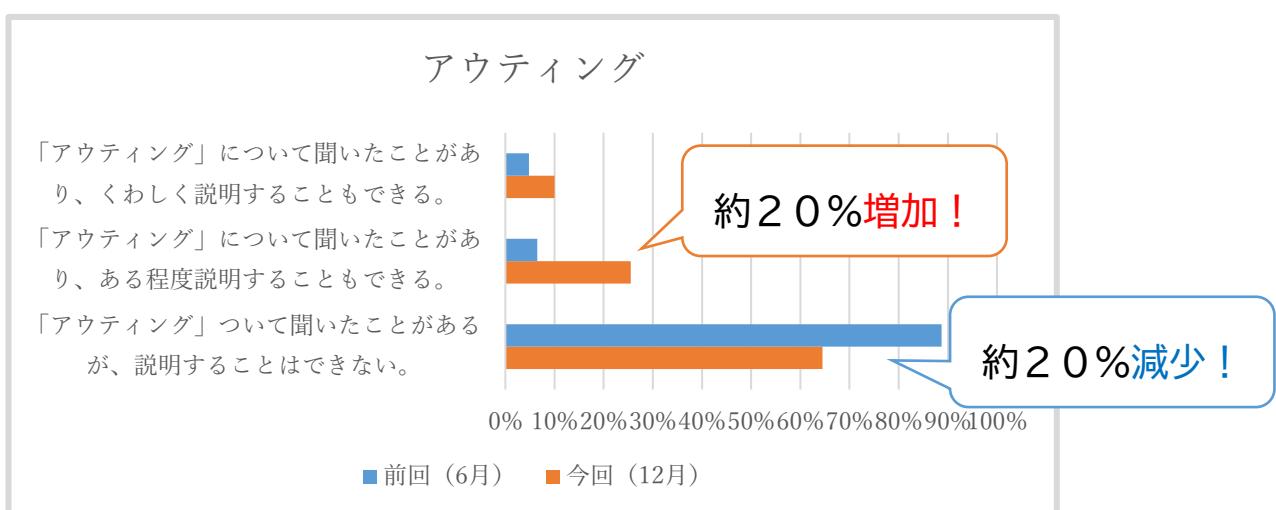
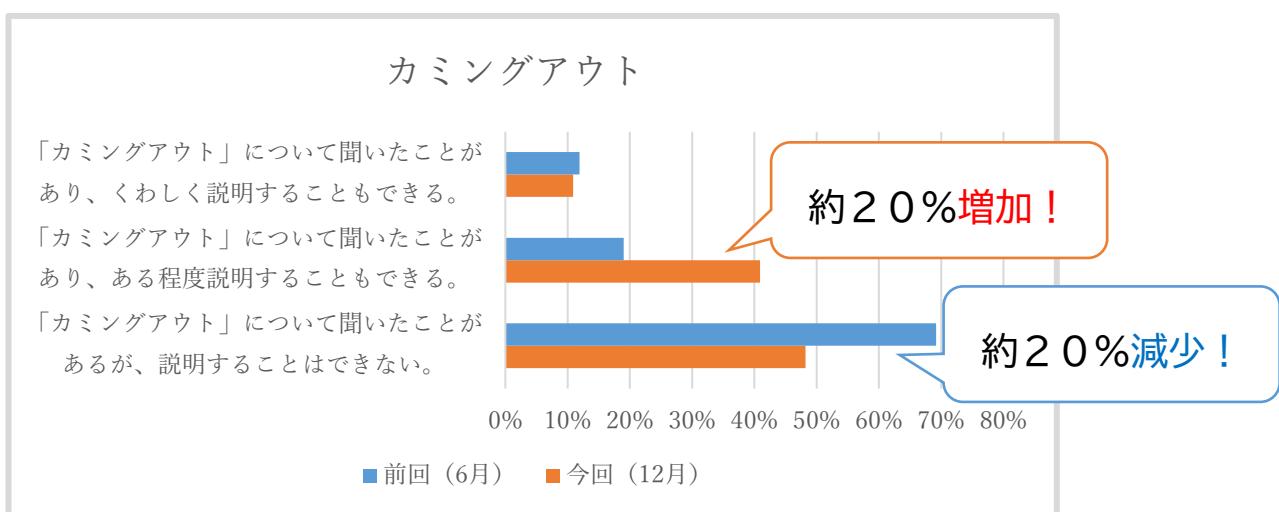
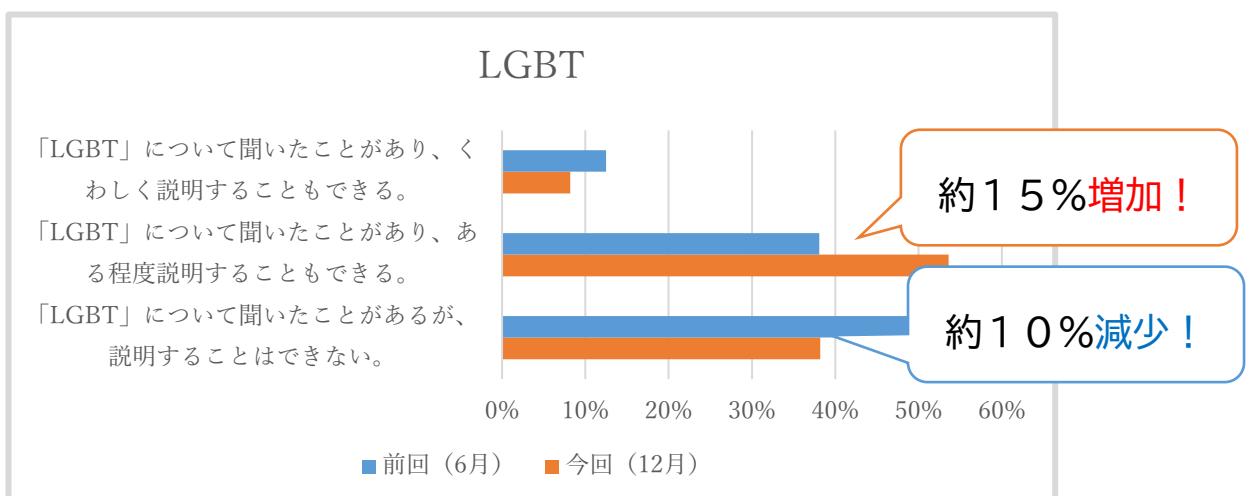
【生徒の感想から】

1年生では、自分や相手の感じ方や気持ちについての感想が多かった。2年・3年と学年が上がるにつれて、「環境」「周り」「社会」「世の中」などの言葉が多く出ており、視点が変わっている。

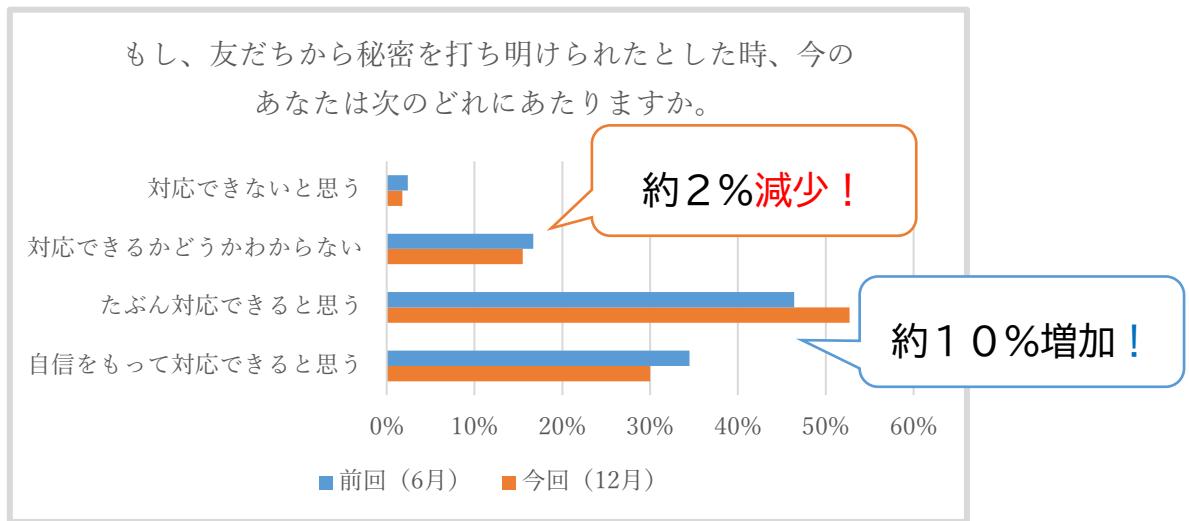
⇒ 同じ教材を扱う場合でも、授業者側が発達段階の違いを理解し、例示する視点や生徒たちに切り返す言葉等を考えて指導する必要性がある。

生徒・教員アンケートの結果

○ 1年生徒 LGBTについてのアンケート結果(6月との比較形式)



「LGBT」と「カミングアウト」の「くわしく説明できる」の割合が少し下がっているものの、上記3つの全ての用語に関して、「説明することもできる」の割合が上がり、「説明することができない」の割合が下がっており、それぞれの用語に対する理解が深まったと言える。知識を獲得する上で、同様の内容を学習することによる効果の結果であると捉えている。



「対応できないと思う」「対応できるかわからない」の否定的な回答の割合が下がった。また、「自信をもって対応できると思う」「たぶん対応できると思う」の肯定的な回答の割合は上がった。

○教員向けアンケート結果

- ① 今回の全校道徳を通して(教材研究・事前研修等も含め)、LGBTQについて理解や関心が深まりましたか。
とても深まった。33.3% やや深まった。66.6%
- ② 今回の全校道徳(教材研究・事前研修等も含め)前と比べて、あなたが生徒から自分がLGBTQであることを打ち明けられたときの対応への自信の度合いはどれくらい変わりましたか。
対応できる自信がとてもついた。66.7% 対応できる自信が少しついた。22.2% 対応できる自信があまりついていない。11.1%
- ③ 今回の全校道徳を通して(教材研究・事前研修等も含め)、今後もLGBTQ理解についての教育を続けていく必要性を感じますか。
感じるようになった。55.6% 少し感じるようになった。44.4%

- ・ 教員向けの事後アンケートでは、今回の全校道徳について肯定的な回答が多かった。
 - ・ 意見として、「全学年同じ教材を行うことで、学年を超えてみんなで授業・教材に向き合い打合せをするきっかけになった。」や「全学年同じ教材で行うことで、子どもたちの発達段階の違いに気付き、今後の指導に生かせる。」というものがあった。
- ⇒ 教員にとっても、LGBTQの実践を通して、一人ひとりの生徒が自分らしく過ごすことができるようにしていく上の「学び」があったことがうかがえる。②の質問において、「対応できる自信がとてもついた」と回答できる教員の割合を増やすことができるよう、LGBTQに限らず、一人ひとりの生徒の存在を尊重できるような取組を継続する必要がある。